

平成27年(2015年)4月の結果 (二人以上の世帯)

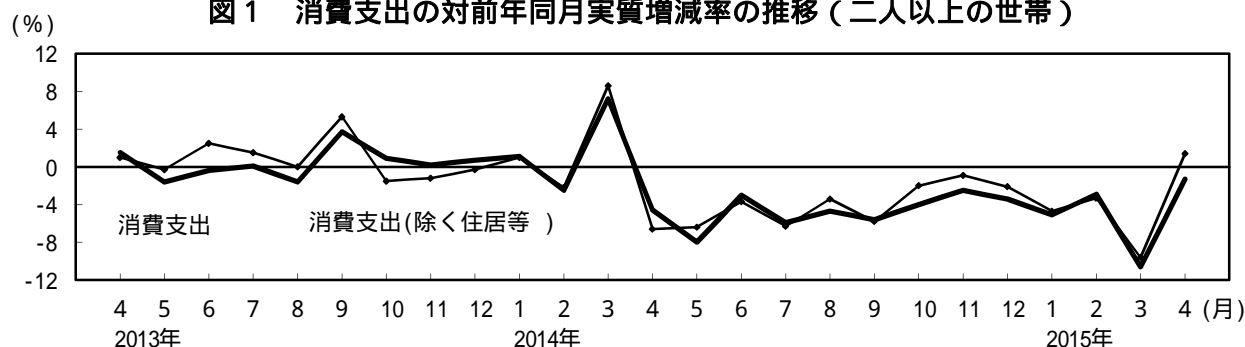
二人以上の世帯

・消費支出は、	1世帯当たり 300,480 円		
前年同月比	実質 1.3%の減少	前月比(季節調整値)	実質 5.5%の減少
	名目 0.5%の減少		
・消費支出(除く住居等)は、	1世帯当たり 257,004 円		
前年同月比	実質 1.4%の増加	前月比(季節調整値)	実質 3.5%の減少
	名目 2.2%の増加		
・勤労者世帯の実収入は、	1世帯当たり 476,880 円		
前年同月比	実質 2.0%の増加		
	名目 2.8%の増加		

：「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている。また、実質化には消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)を用いた。以下同じ。

1 消費支出の推移

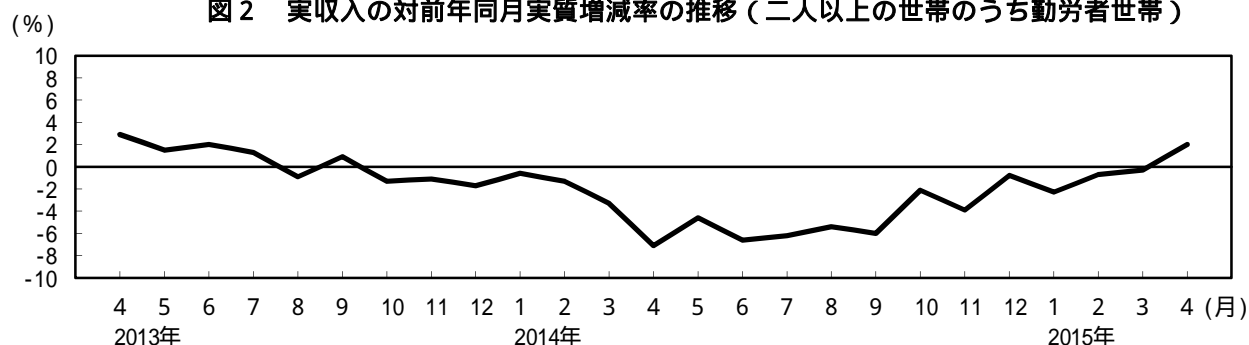
図1 消費支出の対前年同月実質増減率の推移(二人以上の世帯)



	2014年										2015年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1月	2月	3月	4月
消費支出	-4.6	-8.0	-3.0	-5.9	-4.7	-5.6	-4.0	-2.5	-3.4		-5.1	-2.9	-10.6	-1.3
消費支出(除く住居等)	-6.6	-6.4	-3.7	-6.3	-3.4	-5.8	-2.0	-0.9	-2.1		-4.7	-3.3	-9.6	1.4

2 勤労者世帯の収入の推移

図2 実収入の対前年同月実質増減率の推移(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



	2014年										2015年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1月	2月	3月	4月
実収入	-7.1	-4.6	-6.6	-6.2	-5.4	-6.0	-2.1	-3.9	-0.8		-2.3	-0.7	-0.3	2.0
可処分所得	-7.0	-3.4	-8.0	-5.2	-5.2	-5.9	-2.4	-3.9	-0.3		-2.5	-0.5	-1.1	2.3
消費支出	-6.9	-8.8	-4.5	-3.6	-6.0	-7.3	-3.4	-1.2	-3.0		-4.3	-3.6	-11.0	0.5
平均消費性向*	0.1	-5.4	1.9	1.2	-0.6	-1.4	-0.8	2.4	-1.3		-1.6	-2.3	-10.7	-1.5

*：対前年同月ポイント差

3 消費支出とその内訳

表1 消費支出の内訳（2015年4月 - 二人以上の世帯）

項 目	金 額 (円)	対前年同月増減率(%)		実質増減 率 へ の 寄 与 度 (%)	摘 要	備 考
		名 目	実 質			
消 費 支 出	300,480	-0.5	-1.3	-		13か月連続の実質減少
食 料	68,854	6.0	3.2	0.70	<増 加> 穀類,酒類など	5 か月ぶりの実質増加
住 居	16,146	-20.1	-20.6	-1.37	<減 少> 設備修繕・維持	4 か月連続の実質減少
光 熱 ・ 水 道	26,184	2.4	0.2	0.02	<増 加> ガス代,他の光熱	13か月ぶりの実質増加
家具・家事用品	9,003	19.1	19.5	0.49	<増 加> 家庭用耐久財,家事用消耗品など	13か月ぶりの実質増加
被 服 及 び 履 物	12,493	10.5	8.5	0.32	<増 加> 洋服,被服関連サービスなど	2 か月ぶりの実質増加
保 健 医 療	12,395	2.4	2.2	0.09	<増 加> 保健医療用品・器具,医薬品	3 か月ぶりの実質増加
交 通 ・ 通 信	43,698	4.4	7.0	0.96	<増 加> 自動車等関係費,交通など	2 か月ぶりの実質増加
教 育	19,910	-11.3	-12.6	-0.94	<減 少> 授業料等,補習教育	2 か月ぶりの実質減少
教 養 娛 楽	28,601	-8.6	-8.5	-0.88	<減 少> 教養娯楽サービス,教養娯楽用耐久財など	13か月連続の実質減少
その他の消費支出	63,195	-2.6	(-3.4)	(-0.71)	<減 少> 交際費,仕送り金	18か月連続の実質減少
消 費 支 出 (除 く 住 居 等)	257,004	2.2	1.4	-		13か月ぶりの実質増加

： 「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている。また、実質化には消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）を用いた。

注1 「摘要」欄は、消費支出の実質増減率への寄与度の大きい項目を掲載した。

2 「その他の消費支出」の（ ）内は、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）を用いて実質化した。

消費支出の実質増減率に寄与した主な中分類項目及び品目

中 分 類

品 目

< 減少項目 >

実質寄与度

設備修繕・維持	[-1.47]	外壁・塀等工事費,設備器具
教養娯楽サービス	[-0.98]	外国パック旅行費,宿泊料
授業料等	[-0.72]	私立大学,専修学校
交際費	[-0.59]	贈与金
外食	[-0.13]	和食,ハンバーガー
教養娯楽用耐久財	[-0.12]	パーソナルコンピュータ

< 増加項目 >

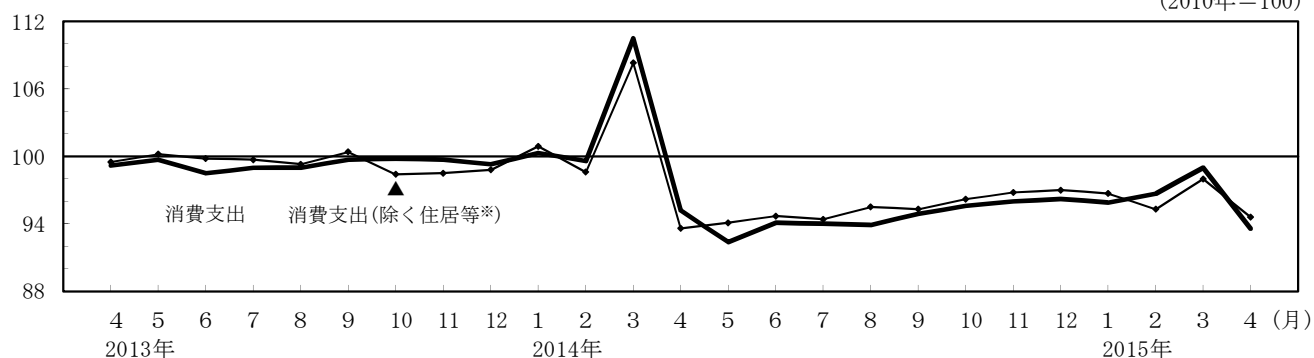
自動車等関係費	[0.41]	ガソリン,自動車等部品
交通	[0.37]	鉄道通学定期代,鉄道通勤定期代
諸雑費	[0.30]	腕時計,たばこ
穀類	[0.23]	米
教養娯楽用品	[0.23]	動物病院代,スポーツ用品
酒類	[0.19]	発泡酒・ビール風アルコール飲料,焼酎

注1 主な中分類項目を寄与度順に掲載した。

2 交際費の実質化には消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）を用いた。

図3 消費支出（季節調整済実質指数）の推移（二人以上の世帯）

(2010年=100)



	2014年										2015年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1月	2月	3月	4月
消費支出	95.2	92.4	94.1	94.0	93.9	94.9	95.6	96.0	96.2		95.9	96.7	99.0	93.6
対前月変化率(%)	-13.8	-2.9	1.8	-0.1	-0.1	1.1	0.7	0.4	0.2		-0.3	0.8	2.4	-5.5
消費支出(除く住居等※)	93.6	94.1	94.7	94.4	95.5	95.3	96.2	96.8	97.0		96.7	95.3	98.0	94.6
対前月変化率(%)	-13.6	0.5	0.6	-0.3	1.2	-0.2	0.9	0.6	0.2		-0.3	-1.4	2.8	-3.5

※：「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている。また、実質化には消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）を用いた。

注1 季節調整の方法は、センサス局法(X-12-ARIMA)を用いた。

2 季節調整値は、毎年1月結果公表時に、過去に遡って改定している。

4 勤労者世帯の収支

表2 収支の内訳（2015年4月－二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

項 目	金 額 (円)	対前年同月増減率(%)		実質増減 率への 寄与度 (%)	備 考
		名 目	実 質		
実 収 入	476,880	2.8	2.0	—	19か月ぶりの実質増加
世 帯 主 収 入	354,789	-0.5	-1.3	-0.97	14か月連続の実質減少
定 期 収 入	347,770	-0.3	-1.1	-0.84	15か月連続の実質減少
配 偶 者 の 収 入	56,825	3.2	2.4	0.28	4か月ぶりの実質増加
他の世帯員収入	8,517	43.0	41.9	0.54	3か月連続の実質増加
非 消 費 支 出	92,170	1.4	—	—	4か月連続の増加
可 処 分 所 得	384,710	3.1	2.3	—	21か月ぶりの実質増加
消 費 支 出	334,301	1.3	0.5	—	13か月ぶりの実質増加
平均消費性向(%)	86.9	(前年同月) (ポイント差)			季節調整値でみると、73.0%で、前月に比べ、3.5ポイントの低下となった。
		88.4	-1.5		

注1 「非消費支出」とは、税金や社会保険料など、世帯の自由にならない支出である。

「可処分所得」とは、実収入から非消費支出を差し引いた額で、いわゆる手取り収入のことである。

「平均消費性向」とは、可処分所得に対する消費支出の割合である。

2 実収入には、勤め先収入(世帯主収入、配偶者の収入及び他の世帯員収入)のほか、事業・内職収入、社会保障給付、財産収入などが含まれる。